

GYODA

CITY PUBLIC RELATIONS

MAR.2013

3

No.801

市報 ぎょうだ



特集
うちの子
家で勉強しないんです P.2
災害に備える。..... P.8

うちの子 家で勉強しないんです

家庭学習の必要性は分かっているけど、「何をしたらよいか分からない」と頭を抱えている子供たちや保護者が大勢います。

そんな子供たちや保護者に対して「家庭学習を定着させるヒントになれば」と行田市教育委員会では、学力向上推進委員会を設け、冊子「家庭学習のすめ」を作成しました。

この冊子を親子で手に取り、家庭学習について語り合ってみませんか。



図1 PISAによる日本の順位の変動

【2000年32カ国】

順位	読解力	数学的リテラシー	科学的リテラシー
1	フィンランド	日本	韓国
2	カナダ	韓国	日本
3	ニュージーランド	ニュージーランド	フィンランド
4	オーストラリア	フィンランド	イギリス
5	アイルランド	オーストラリア	カナダ
8	日本		

【2006年57カ国】

順位	読解力	数学的リテラシー	科学的リテラシー
1	韓国	台湾	フィンランド
2	フィンランド	フィンランド	香港
3	香港	香港	カナダ
4	カナダ	カナダ	台湾
5	ニュージーランド	ニュージーランド	日本
10		日本	
15	日本		

〈文部科学省ホームページから〉

用語説明

- ▶ PISA・・・国際的な学力の位置付けを測る基準としてOECD（経済協力開発機構）が行っている学習到達度調査。義務教育の終了段階にある15歳の子どもの対象に、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーを調査するもの。
- ▶ リテラシー・・・読み書き能力。また、与えられた材料から必要な情報を引き出し、活用する能力。

日本の学力は大丈夫なのか

図1は、PISA（学習到達度調査）の結果です。日本の国際順位は平成12年（2000）の調査で、読解力は平成12年（2000）の調査で、読解力は8位、数学的リテラシーは1位、科学的リテラシーは2位でした。ところが、平成18年（2006）は読解力は15位、数学的リテラシーは10位、科学的リテラシーは5位とすべての科目で順位を下げっており、学力低下が懸念されています。

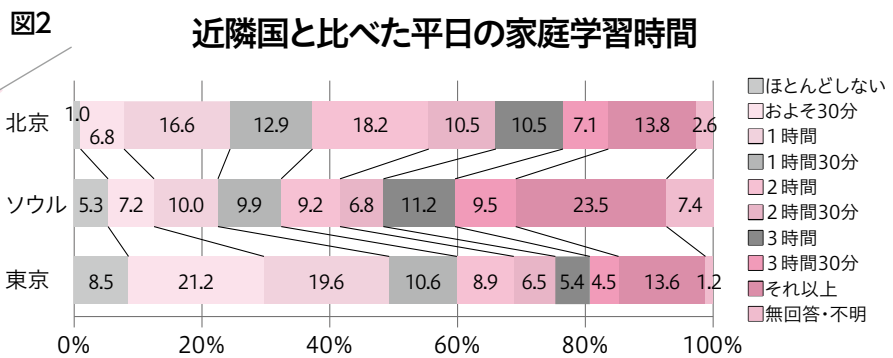
心理学者エビングハウスの研究によると、完璧に覚えたつもりでも、1日経過すると7割以上が記憶から消えてしまうといわれています。

学校の授業で覚えたことも、反復しなければ7割は忘れてしまうのです。しかし、反復することで忘れる割合は大幅に低くなることも、心理学者ラッセルによって証明されています。

「予習→授業→復習」のサイクル化を図ることは極めて大切なこと。家庭学習の習慣化は、学力低下を食い止めるために、なくてはならないものなのです。

日本の子ども事情

日本の子どもの家庭学習の時間をチェック



「学習基本調査・国際都市調査」(Benesse教育研究センター2007年)

図2は、首都に住む小学生が、平日にどれくらいの時間を家庭学習に費やすかについて、近隣の国と比較したものです。ソウル（韓国）では、全体的に家庭学習の時間が長いことがわかります。小学生の60.2%が2時間を超えており、さらに3時間以上学習している小学生は44.2%と東アジア3国の中で最も多く、学習量が顕著に多いことがわかります。これに対し、東京（日本）の子どもの家庭学習の時間はいかがでしょうか。家庭学習をする時間が「およそ30分」「1時間」という回答が多く、それぞれ21.2%、19.6%となっています。その一方で、3時間以上学習している小学生は23.5%もいます。この数字から、家庭学習の時間が二極化していることが読み取れます。つまり、同じ教室に学習時間が短い子どもと長い子どもがいるということなのです。



家庭学習を考える

携帯電話やゲームが広く普及するなど、子どもを取り巻く環境は、大きく変化しています。親の世代が子どものときになかった機器が、家庭での学習時間に影響を与えていることは間違いありません。

現在の小・中学生の家庭学習事情とは。保護者の皆さんに、家庭学習について感じていることや考えていること、実践していることを、学校の先生を交えて語ってもらいました。



家庭学習の習慣付けには、親と一緒にきつかけづくりをするのがよいのではないのでしょうか。
江森正行さん(中学校保護者)

★子は親を見て育つ★

司会 子供たちの家庭学習について、普段どのように感じていますか。

増田 子供たちには、時間を有効に使って、家庭学習の時間を確保させたいですね。

江森 家庭学習の習慣付けは、ひたむきに毎日、真剣に取り組むことが大事。親と一緒にきつかけづくりをするのがよいのではないかと思います。

島野 苦手なものでも地道にやり遂げることで力になりますよね。

遠藤 私は物事に興味を持たせるために、子どもをプラネタリウムや博物館などに連れて行き、学習に関心が向くようにしました。

江森 さまざまなことに興味を持ち、何のために勉強するのか、目的意識があれば一生懸命勉強できますよね。

子どもが自然と学習に関心が向くように、さまざまなおもしろいことに興味を持たせてあげました。

遠藤峰子さん(小学校保護者)



山本 小学校では、家庭学習をやったこない子と先生の根比べです。先生は家庭学習をさせる工夫をしていますよ。

柳原 家庭学習の習慣は中学校入学の時点で二極化しています。小学校低学年のうちから習慣付けをすることが絶対に必要です。

江森 なぜ子どもが勉強しないのか。この学力向上推進委員会に参加して、親がそういうふうにならないうちから親がそういうふうにならないうちから親を見て育つ」を実感しました。

★子どもに「ペンだこ」

ありますか★

司会 家庭学習をやる子どもとやらない子どもの二極化が話題になっていますが、どのように感じますか。

島野 忙しい子どもは家庭学習がで



山本信男さん(南河原小学校教頭)

学校と家庭が協力して、本気で子供たちに学力を付けることを考えたい。

きかないかというところではなく、けじめが付けられているか、時間の使い方が有効かに関わると思います。

遠藤 部活動との両立が難しいという話も聞きますが。

柳原 入学したばかりの中学1年生はかなり疲れています。慣れれば時間は確保できます。

島野 以前の家庭学習は書くことが多かったと思いますが、最近は書くことが減ったと感じています。

山本 書いて覚える、声に出して覚えるというのとはとても有効ですよ。

遠藤 自分が子どものころ、新聞のコラムを何文字以内にとめるといって宿題があり、大変だったけれど、それがとても印象に残っています。

柳原 私は最近の子供たちにペンがないのが気になります。

島野 同感です。私も家庭学習では書

くことを中心にやらせたいと思います。

遠藤 1日1ページでもしつかりやれば効果が出ますよ。

柳原 昔の頑固おやじ、それくらいのが気持ちで親も覚悟を決めましょう。家庭学習を習慣付けするには、親の強い意志も必要です。

増田 書くことが減るとともに、子供たちが自分の力で考えることが減っていると感じます。

江森 考える力が未熟で、ほかの考えに活用できないという話も聞きますね。

柳原 高校入試も問題の傾向が変わり、単なる〇×ではなく、読み取ることができないと答えにたどり着けなくなっています。今、求められている学力は、いかに自分の言葉で表現できるか。まずは、勉強する習慣づくりから始め、実力を付けていかなければなりません。



柳原功さん(忍中学校校長)

家庭学習を習慣化するためには、親の強い意志も必要です。



島野幸江さん(中学校保護者)

苦手なことでも、地道にやり遂げることで力になると考えています。

★「家庭学習のすすめ」のススメ★

司会 学力向上のために必要なことは、何だと思えますか。

江森 学力向上と日常の生活習慣は、やはり切り離すことができないですね。

山本 埼玉県調査からも読書をよくなる子どもは、学力が高いという結果が出ています。

柳原 子どもに目を向け、ちよつとした工夫で家庭学習はできるようにになります。

島野 自分の子どものころと比べて、今の子どもは受け身であると感じています。自主学習というからには、自分で課題を見つけられるまで高めるのが理想だと思っております。

増田 親は子どもに社会性を身に付けさせるために、勉強が将来どのような

に役立つのかを教える役目があると思います。

江森 親が学校とのつながりを持つことで、子どもも変わると思います。

島野 十分でなくてもいいから、いつも子どもに関わっていくことを忘れないことが大切です。

山本 学校と家庭が協力して、本気で子どもに学力を付けることを常に考えたいと思います。

柳原 親が真剣に子どもに関わるきっかけづくりとして、この「家庭学習のすすめ」が糸口になればと考えます。

島野 「何をやらせたらよいか分からないから、家庭学習ができない」という子どもたちのために、そして、どうアドバイスしたらよいか分からない親のために「家庭学習のすすめ」をぜひ勧めたいです。



増田雅久さん(小学校保護者)

親には、「勉強が将来どのような役に立つか」を教える役目があると思います。

「小学1年生から中学3年生まで、すべての児童・生徒に的確なアドバイス」

「ただ単に『家庭学習をしましょう』と言われても、実際に何をどのように取り組んだらいいのか分からないよ」と悩んでいる子供たちのために、この冊子には小学1年生から中学3年生まで、学年および教科ごと（小学1・2年生は国語・算数の2教科、小学3～6年生は国語・算数・理科・社会の4教科、中学生は国語・数学・理科・社会・英語の5教科）に家庭学習で行うべき内容が具体的に記載されています。根

「家庭学習を始める前に、子供たちの生活習慣や学習環境をチェック」

「さあ家で勉強を始めよう」と意気込んで家庭学習に取り掛かる前に、家庭での生活習慣や学習環境を振り返る必要があります。

「寝る時間が遅い」「朝食を食べないで学校に行く」「テレビを見ながら、携帯電話を操作しながら勉強をする」といった生活習慣や学習環境は、集中力を散漫にさせ、学力低下の原因につながります。

また、子供たちは「自分は勉強ができない」と意識してしまつと、自分から机に向かつて勉強することを避ける傾向

があります。その結果、学校の勉強についていけなくなるといった、マイナスのスパイラル（連鎖）に陥ってしまうのです。

家庭学習を習慣化させるためには、勉強に向かう姿勢、つまり「生活習慣」や「学習環境」を整えることが重要です。「家庭学習のすすめ」には「テレビやゲームをする時間は決めているか」「携帯電話を使うときの約束は決めているか」など具体的な項目を掲載していますので、簡単にチェックすることができます。

気強くコツコツ実践すれば、必ず学力は向上するはずですよ。

また、学習ノートの使い方、がまだ不慣れな小学1・2年生の児童には、「家庭学習ノート」の「のれい」といった実例を掲載してノートの書き方を紹介しました。さらに、各学年で習っていない漢字は使用しないなど、言葉の表現にも配慮した内容にしましたので、誰でも利用しやすいようになっています。

今日から家での勉強はバッチリ

家庭学習のすすめ

行田市学力向上推進委員会では、「本気で家庭学習を！」を合言葉に、保護者と教師の協力を得ながら「家庭学習のすすめ」行田版モデルを作成しました。

「『家庭学習』と言われても、何をすればいいの」と悩んでいた方は、これを活用すれば大丈夫。

「家庭学習のすすめ」は行田市教育委員会ホームページに掲載されていますので、ご覧ください。

Interview (インタビュー)

授業で得ることができた喜びを
一過性のものにしてはいけない

子供たちは、学校の授業を理解できると「できた」「分かった」と喜びの表情を浮かべます。その喜びを「一過性のものにしたくない。家庭にもつなげていきたい」という思いから、「家庭学習のすすめ」を作成しました。この冊子を活用することで、子供たちの学びの場を充実させることができると確信しています。学校で理解してきたことを家庭でさらに深めるためには、親のサポートは不可欠です。しかし、最近は親が忙しく、子どもと関わる時間が少なくなっているようです。「家庭学習のすすめ」を参考にしながら、親子で家庭学習の方法などについてじっくり語り合ってみてください。学力が向上するだけでなく、親子のきずなが深まり、豊かな心も育まれるものと考えています。



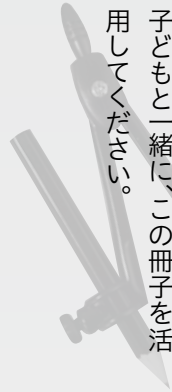
行田市教育委員会
中村 猛 教育長

「保護者も安心。子どもに対する
アドバイスが満載」

「早く勉強をしないさい」と言って、子どもに勉強することを促していませんか。しかし、子供たちにとっては、その対応は逆効果なのです。一方的に言われると、学ぶ意味や面白さを感じられなくなり、「勉強しよう」という意欲がわかなくなり、保護者の温かい助言や励ましの言葉で子供たちはやる気を起こすのです。この冊子には、「子どもがやる気になる魔法の言葉」の一例が紹介されています。

また、保護者に対しても、教科ごとに家庭学習の内容や学習時間の目安が掲載されていますので、子どもの家庭学習をバックアップすることができます。

「勉強は学校でするものだから、保護者は関わらない」という意識を持っているのは、家庭学習は定着しません。「この冊子は、家庭学習を習慣化できる絶好のチャンス」と思って、子どもと一緒に、この冊子を活用してください。



変化の激しい時代を生きていくためには、基礎的・基本的な知識・技能だけでなく、それらを活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力が求められています。それらの力を最大限伸ばすためには、家庭学習を欠かすことはできません。

学校と家庭がしっかりとスクラムを組むことで、子供たちに確かな学力とこれからの時代を生き抜く力を定着させることができます。今日から、子供たちの「生きる力」を一緒に育てていきましょう。

